

★ 都内草の根助成 書類選考通過団体（投票用紙に番号又は団体名を記入）

私たちの生活圏であり、身近な地域である東京都内の市民活動を応援する助成です。

団体 番号	助成申請団体・申請事業の概要等			
都1	団体名	フリーランス杉並家族会	申請額 (万円)	12
	事業名 と事業 概要 (応募 用紙か ら)	<p>●ひきこもり・発達障がい地域支えあい事業</p> <p>【趣旨】杉並区内で生きづらさを感じて一步を踏み出せないひきこもりやその家族はまだ潜在的に存在している。そのような方々に当会を知っていただく機会として、地域のつながりを持てる場として、ひきこもり問題に詳しい専門家による講演会を4カ月に1度開催する。親が参加して知識を取得し、「自分のせいで子どもがひきこもったのではない」、「自分ひとりではない」と知ることで、当事者や家族の孤立化を防ぎ、少しでも元気になり気持ち良くなる家族会に参加できるきっかけにしたい。著名な講師の講演会を開催するために、杉並区の後援をいただき、広報すぎなみに掲載されることで、安心して参加できる安全な家族会として知ってもらうことと、定期的に区内で講演会を開催するために講師謝礼金として助成金を申請する。令和7年度よりひきこもり支援事業が開始するので、当事者や家族と行政との橋渡し役を一層強めるための一助にしたい。</p> <p>【概要】（講演会）4か月に1回、原則として第4日曜日（7月、11月、3月）に、専門家による講演会を開催。会場は杉並区内公共施設を使用。時間：13時30分～16時30分・参加費：1000円（当事者無料）（家族会）毎月第3水曜日に、家族の居場所として「家族懇親会」を開催（年12回：参加対象は家族、当事者、経験者、支援者等。但し、奇数月は家族、経験者の集い・偶数月は家族、当事者、経験者の集いとしている）開場：ウェルファーム杉並4階。時間：13時30分～16時30分参加費：200円（資料コピー代金・当事者無料）</p>		
都2	団体名	NPO法人ブリッジ・フォー・ピース（BFP）	申請額 (万円)	45.7
	事業名 と事業 概要 (応募 用紙か ら)	<p>●「イラストでわかるBFP平和学習ガイドブック」制作</p> <p>平和学習導入へつなげる若手教員向けガイドブックの制作をします。</p> <p>これまでワークショップ授業の新規開拓のために、依頼料無料期間を設けたり、ホームページやSNSでの発信も試みましたが、ほとんど反応がない状況です。</p> <p>紙媒体離れが進む昨今ですが、“書籍”は手元に残ることに価値があり、また堅苦しい文章ではなくイラストや漫画を多く盛り込むことで感情移入しやすく、人々の共感を生みやすいコンテンツに仕上げます。戦争という重いテーマを扱う当団体について分かりやすく紹介することにより、共感と支援の輪を若い世代、特に教員の方々の間に広げ、当団体の展開する「戦争体験者の証言ビデオを使った授業」の展開拡大につなげます。</p> <p>4月～5月企画準備、6月から2月にかけて制作。その期間中、3回ほど会員の意見を聞くための打ち合わせを都内にて開催。冊子配布に先立って、本事業の周知し、冊子受取時に好印象を与えるため、告知ハガキを学校や大学に郵送（夏頃を予定）。製本され次第、学校や大学に配布します。当団体の支援者にも配布し、既存の人脈も活用します。</p>		
都3	団体名	NPO法人Remember HANA	申請額 (万円)	49.75
	事業名 と事業 概要 (応募 用紙か ら)	<p>●SNS誹謗中傷から子どもたちを守るための出張授業・支援事業</p> <p>本事業では、SNSトラブルや誹謗中傷など、心を痛める出来事が起きている学校や地域に直接足を運びます。今、多くの現場で、SNSや人間関係のトラブルに悩む子どもたちが増えています。私たちは、そうした緊急性の高い現場に駆けつけ、生徒や先生たちと一緒に「どう寄り添えるか」を探し続けています。そんな中、上記に述べた予算不足の障壁を除くことが大切です。</p> <p>リメンバーハナの授業や研修は、正解を教える場ではなく、ひとりひとりの言葉に耳を傾け、ともに考える時間です。授業前には匿名アンケートで心の声を受け取り、学校ごとに完全カスタマイズ。必要に応じて木村響子本人が手紙で返事こともあります。現場には、必ず当事者である木村響子とピアサポーターなど最低2名が同行し、安心して話せる空気を大切にしています。花さんの望む「やさしい世界」を、私たちは現場から、ひとりひとりとともに育てることを目的に、本事業を進めていきます。</p>		

団体 番号	助成申請団体・申請事業の概要等			
都4	団体名	一般社団法人つくろい東京ファンド(つくろい)	申請額 (万円)	37.7
	事業名 と事業 概要 (応募 用紙か ら)	<p>●難民申請者のための日本語教室</p> <p>世界では戦争や迫害により避難を余儀なくされた人々が1億2000万人に達し、日本でも難民申請者が2023年、2024年ともに1万2000人を超えている。かれらを支える公的支援はほとんど存在せず、食料や住居を失い、ホームレス状態に陥る人も多い。若者や妊婦、子どもを含むこれらの人々に対し、私たちは生活支援を行ってきたが、日本で生きていくためには日本語の習得も不可欠である。しかし、かれらへの公的日本語教育支援はなく、地域にある既存の日本語教室は費用や交通手段、学習レベルの違いなどの理由から利用が難しいのが現状である。そこで2023年4月、目白大学鈴木美穂准教授と連携し、日本語教室を開設した。当初は数名の参加であったが、現在は平均8名の学習者と4名のボランティアが参加し、マンツーマンまたは少人数形式で指導を行っている。学習内容は難民の背景を考慮し、日常生活・就労・住居探しなどに役立つ日本語力の習得を目的としている。教室運営費の一部は大学からの助成により賄っているが、すべては賄えず、また、教材や備品の購入費が不足しており、安定的な運営が課題である。</p>		
都5	団体名	PLATHOME労働者協同組合(PLATHOME)	申請額 (万円)	44.6
	事業名 と事業 概要 (応募 用紙か ら)	<p>●デジタル&クラフト放課後カルチャークラブ</p> <p>本事業は、子どもたちが自由に創作し、自らの興味・強みを育む「ものづくりの場」を提供することを目的としています。子どもたちにとって、自己表現と成功体験の機会となる環境づくりを目指します。9月の地域フェスの子ども広場での発表をゴールに設定し、子どもたちが自らテーマを決め、ガチャガチャのカプセルトイ制作に取り組むプロジェクト型プログラムを実施します。ガチャという制約の中で自分の世界観を表現することで、企画力・創造性・コミュニケーション力を育みます。制作過程では、3Dプリンター、レーザー加工機、刺繍機といったデジタルファブリケーション機器やPCソフトを使用し、デジタルスキルの習得を図ります。子どもたちが望めば廃材や地域資源を活用も可能な環境をつくります。また、作品制作においては、個人プロジェクト希望調査などを通じ、子ども自身が「やってみたい」「つくってみたい」を言語化し、プロジェクトの方向性を自分で選ぶ体験を重ねることで、自立的な学びと意思決定力の育成を目指します。</p>		
都6	団体名	谷中ベビママ安心ネット(ベビママ)	申請額 (万円)	50
	事業名 と事業 概要 (応募 用紙か ら)	<p>●MY TREEペアレンツ・プログラム</p> <p>当助成金を通じて、MYTREEペアレンツ・プログラムの実践グループを新たに立ち上げる。当プログラムでは、子ども虐待を「これまで人として尊重されなかった痛みや悲しみを怒りの形で子どもに爆発させている行動」と捉え、虐待に至ってしまった親の回復支援を行い、虐待的言動の終止を目指す。全13回のグループワークや個別面接を通して、親が自身の過去の痛みと向き合い、他の参加者との対話を通じて「自分だけではない」と実感できる環境を整えることによりセルフケアと問題解決力、人とならる力を回復することを目指す。</p> <p>これまで東京では1団体のみ当プログラムを行っていたが、ニーズに対してプログラム実践団体数が足りていない現状がある。また、平日にプログラムを実施している団体が多く、平日に仕事がある親は参加しづらい状況にあるため、土曜日もしくは日曜日の開催とし、働きながら子育てをしている人にも参加しやすいよう配慮する。</p> <p>また、本プログラムは参加費・保育ともに無料とし、経済的・時間的な制約から支援につなぐににくい家庭にも参加できるよう工夫を行う。グループセッション後も同窓会などを通じてフォローアップを行う。</p>		

団体 番号	助成申請団体・申請事業の概要等			
都7	団体名	特定非営利活動法人 ASIAN PEOPLE'S FRIENDSHIP SOCIETY (A.P.F.S.)	申請額 (万円)	48.9
	事業名 と事業 概要 (応募 用紙か ら)	<p>●在住外国人に対する相談事業</p> <p>「排外主義」が日本国内で深刻化する現状に対し、日本に住む外国人と日本人が同じ隣人として共に生きる地域社会実現のため、外国人の抱える問題・悩みの相談に乗り、解決までを一緒に行なう。具体的には日本に住む外国人の様々な問題（在留資格、医療、教育、生活など）に対し、相談対応を長年やってきたスタッフが中心となり、問題の所在や選択肢の説明、同行支援などを通じて解決まで導く。こうした解決には、学生や会社員、元教員や IT 技術者、そして在住外国人などの多様なバックグラウンドを持つボランティアが、それぞれの得意分野・コネクションを生かし、通訳や情報発信、学習支援や同行支援などを行い、問題解決までをサポートしていく。また医療面では連携する医師・臨床心理士に相談し、必要があれば診察・カウンセリングなどをお願いする。今回は特に相談員を希望する1名に相談補助員となってもらい、集中的に相談に関わり相談員として育成していく。</p>		
都8	団体名	特定非営利活動法人 DAKKO	申請額 (万円)	24.9
	事業名 と事業 概要 (応募 用紙か ら)	<p>●障害児向け投票支援</p> <p>都内5箇所の放課後等デイサービスに向けて弊社から講師を派遣し、子どもの意見表出から意見表明そして事業所・施設の運営に関する事項の検討の場に障害を持つ若者を参画させ意見表明の機会を作るワークショップを行うことで、障害をもつ若者が「自分の意見が取り入れられ役に立った」という自己肯定感を得たり、意見を表明することの大切さや有意義さを体感できたりする機会を作る。スーパーバイザーと施設関係者と弊社スタッフを集めた企画修正会議では、半年に一度企画の経過共有、反省、企画方針の修正や学術的根拠付けを行い、質の高いカリキュラムを作成する。</p>		
都9	団体名	特定非営利活動法人 生と死を考える会	申請額 (万円)	50
	事業名 と事業 概要 (応募 用紙か ら)	<p>●死別体験者の支援事業</p> <p>◆死別体験者の分かち合いの会（月4回）：死別の喪失悲嘆の中にある人たちが、その悲しみ、苦しみを自由に、率直に、語り合い、時に共感し、寄り添い、悲苦を「分かち合い」ながら、大切な人を喪ったその後の生を共に考えていく場と時間になることを願って開催します。</p> <p>◆ひまわりの会（月1回）：大切な人との死別悲嘆にその人なりのひと区切りがついたと感じ、その後、どのように再出発の道を歩んでいくかについて、互いに、率直に、かつ本音で語り合っていくことを目的とする会を開催します。</p> <p>◆遺族支援スタッフ養成研修会（2026年9～11月）：本会の活動を支えるボランティアスタッフを養成することを目的とします。</p> <p><主な研修カリキュラム></p> <p>死をめぐる社会学的視点/死別の悲嘆・プロセスについて/死に臨む文学と哲学から/傾聴について/医療現場から観る遺族支援の課題/LGBT+基礎知識/自死の背景と自死遺族支援のあり方/遺族に寄り添う際の大切な態度と課題</p>		

団体 番号	助成申請団体・申請事業の概要等			
都10	団体名	あーとスタジオBee	申請額 (万円)	50
	事業名 と事業 概要 (応募 用紙か ら)	<p>●不登校・多様な学びの「あーとスタジオBee」</p> <p>現在、不登校児童生徒は過去最多を記録し34万人となっています。不登校には段階があり、行き渋り期、混乱期、慢性期、回復期となって、学校や社会へ復帰していきます。中には、引きこもってしまうお子さんもいます。回復期になると、お子さんの心身の状態が安定してきて、家族との会話や笑顔が増えてきます。しかし、外とのつながりを持つのが不安で怖い。外出したくない。という声をよく聞きます。そこで、「ちょっとやってみたいな」「面白そう」をきっかけに自然と一歩踏み出せる場所があったらいいと考えました。部活動形式の内容をたくさん用意して、好きなものに1時間から参加できます。お子さんだけだと不安な方もいると思うので、親御さんは別のお部屋でゆっくりお待ちいただけます。他の親御さんとお話したり、お茶を飲みながら過ごせます。部活動は、お子さんが主体的に行うことをたいせつにしていますが、支援者のサポート先生が2名がつきます。一つの部活動は定員5名です。子どもが無理なく自分らしく元気を回復していけるように支援します。親御さんにとっても、学びや交流を通してリフレッシュや自己成長につながる場になればと考えています。親向けの部活動も行います。親子それぞれが安心して過ごしながら、互いを理解し合えるような環境を大切にしています。</p> <p>◆活動が地域にもたらす効果</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 安心して過ごせる居場所（フリースクール）の提供 ② 子どもの自己表現や交流を通じた成長と自立の支援 ③ 不登校親の会、親向けの学びや交流によるリフレッシュと気持ちの安定 ④ 地域社会における不登校理解の促進と支援の輪の拡大 		
都11	団体名	にしとうきょう☆ユース保健室	申請額 (万円)	50
	事業名 と事業 概要 (応募 用紙か ら)	<p>●地域でのユース保健室の開催と包括的性教育啓発・普及</p> <p>ユース保健室としての活動は公共的なものに近いため、現在収益がない状態である。そのため活動資金を生み出すための事業を合わせて実施し、ユース保健室の事業継続を図る。具体的には認知度を上げ、問い合わせ対応ができるように、ホームページを作成し、活動を知ってもらい、地域、学校、各イベントの依頼を受け、包括的性教育啓発普及の拡大を目指す。また他ツールも使用し広報宣伝を重点的に行う。にしとうきょうユース保健室として広範囲に情報を届ける。オンライン講座の開催のツールを整備し、知識普及のための有料講座の開催を目指す。LINE機能を整備し、イベント開催の告知やHPへの誘導をおこなう。地域のアウトリーチとして児童館以外で、「ミニユース保健室カフェ」を定期的で開催し、個別に話を聞いたり相談対応ができる機会を増やす。</p>		